NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。

ニュースレター　イデア

2018

5月号

つながり×ひろがる　　いちのせき市民活動センター

2 | 二言三言　アートと地域～田舎の可能性を考える～
4 | 団体紹介　社会福祉法人　花泉さくら会（花泉）
5 | 地域紹介　川崎　外山西部自治会（川崎）
6 | 企業紹介　おおすみファーム（藤沢）
7 | センターの〇〇　センターの独自調査　ごみステーション

フタコト×ミコト

第47回　二言三言 118/118,270

アートと地域～田舎の可能性を考える～

対談者　加藤鉄平さん
聞き手　いちのせき市民活動センター　主任　佐々木 牧恵

千厩町を拠点に各地でアート活動を展開している加藤鉄平さん。活動を始めたきっかけや原動力、アートを通して何を感じてほしいかなど、高校の同級生だった佐々木主任との対談で話していただきました。

アートを始めたきっかけ

【佐々木】今や県内だけでなく、東京など関東でも活動している鉄平君ですが、絵はいつ頃から描き始めたんですか？

加藤鉄平 さん

【加藤】サラリーマン時代からですね。働いている時に脳腫瘍で倒れて、治療の後に仕事復帰させてもらいましたが、その頃も付箋１枚１枚に絵を描き部屋中に貼って眺めたり、板に絵の具を飛ばしてみたり。それまではずっと絵を描く趣味もなく、別に好きなわけでもありませんでした。

【佐々木】鉄平君は高校でバドミントン部でしたし、スポーツマンのイメージが強くて、絵を描くイメージは一切なかったしそんな雰囲気もなかったですよね。

【加藤】「絵を描く」と言いますが、絵の具は手段の一つというだけで、実は「絵を描いてる」と言われるのも「アーティスト」と呼ばれるのも僕は違和感を覚えるというか。僕は別にアーティストを目指そうと思っていたわけでもないんです。自分でもよくわからないんですが、絵の具を飛ばしたり針金を丸めて色をつけたり、そういうやりたいことは次々に浮かびました。過去のフラストレーションを解消するかのごとく(笑)

【佐々木】それはサラリーマン時代のモヤモヤでしょうか？

【加藤】多分それよりも前、学生の頃からずっと溜まっていたような気がするんです。アートを作っている時は自分との対話というか、自分自身のことをずっと考えていますし。ダンボールや木の板とかの平面に絵具を塗るんですが、平面が足りなくてティッシュに描いた時もありました。その延長にできたのがシーツの作品だったんですよね。そうしているうちに作品が溜まりすぎて、「何かアクションを起こそう」「自分の作るものが人々の役に立てるかも」と思いまして。それが千厩でやった初めての個展「空と血と」だったんですよね。

【佐々木】「空と血と」というタイトルはかなり衝撃的でした。ちなみに、５月末から「涙～それははじまりの雨だった～」という個展を予定していますが、なぜこのタイトルにしたんですか？

【加藤】それは、僕に活動のきっかけをくれたのが「悲しみ」だったからなんです。なので、原点に戻る個展になるのかな。「悲しみ」というのは、僕が病気になった時、身の回りで自分より重い症状の人達が必死に生きている姿を見て、「可哀そう」とか「辛そう」とかそんな思いがありまして。ある日、僕が放射線治療を受けるために病院の地下を歩いていたら、先に女性がいたんです。その方が、新生児みたいな小さい自分の子を治療室に入れている様子を見て、すごく辛くなりました。励ましたくて「きっと大丈夫ですよ」と声をかけても表情は暗いままで…。

【佐々木】それは辛い気持ちになりますね。

【加藤】自分が誰かの役に立てるものは何だろうと考えた時があって。例えば、隣に泣いている方がいて、「ここにきれいな花が咲いているのに」って気づかせてあげたい気持ちでアートを作っている感じですね。

キーワードは「もったいない」

【佐々木】私も地元に戻ってきた人間ですが、地元にいる人が「地元で充実した暮らしができてるよ」「楽しくやってるよ」ということを発信するのはすごく大事なことだと思っていて、鉄平君はその象徴なんですよね。自分が何かやっていなくても、地元に帰ってこない友達に「鉄平君が千厩でこんな活動してるよ」と話すのが楽しいですし、すごくありがたい存在だと思っています。

【加藤】田舎と都会の壁みたいなものはこれからどんどんなくなってくるんじゃないかと思ってますし、なくなってほしいと思っています。

【佐々木】鉄平君は‘田舎の何もなさ’を売りにしてくれていますよね。「やりたいことが何でもできるよ」というような。

【加藤】僕は千厩スタートで、今は銀座のグループ展や六本木の国立新美術館で開かれる公募展にも参加できるようにもなりました。平成 28 年に千厩でやった個展に岩手芸術祭の方が見に来てくれて、そこから現代美術家協会の方とも繋がりができ、その方の紹介で去年６月に国立新美術館の現展に応募し、さらに入選することができました。

【佐々木】それはすごいですね！

【加藤】場所に関係なく、「想像力」さえあれば手段はあるということですよね。僕は田舎に可能性を感じています。

５月の個展で展示する作品を特別に見せていただきました。鮮やかな青色とキラキラとした光は宇宙を連想させます。

【佐々木】そういえば、前に鉄平君が「地域のトタン屋根や壁を塗り替えたい」と話していたのがすごく印象的でした。

【加藤】やったら絶対におもしろいと思いますよ！屋根や壁のほかにも田んぼにアートを取り入れたりとか、こっちではすぐ「やっていいよ」と言ってくれる方がいますし、そういう‘田舎のもったいない景色’はまだまだありますから。

【佐々木】そこに住み慣れているとそういう発想もなかなか出てこないですよね。多分、一度都会に出て戻ってきた人だからこその発想というのもあるのかな。そこに目を向けてくれるのはありがたいですね。

【加藤】何ていうか、狭くなっている視野を広げてあげたいというのもあります。新しい価値を創造するのではなく、もともとある価値を思い出させたいというか。千厩に来て「ここは良い場所だな」って思ったらそれも視野の広がりですし、子どもの頃に田舎の開けた場所に来たらワッと走りたくなるようなあの感覚とか。

棚に並べられた植木鉢の作品。過去に作った作品は大小関係なくどれも大切に保管しています。

楽しみながら地域の魅力を伝える

【佐々木】千厩へのこだわりはあるんですか？「千厩を拠点にしたい」とか「千厩を元気にしたい」とか。

【加藤】自分はやっぱりここがホームだなと思いますし、今は千厩をベースに活動したいと思ってます。でも、「まちを元気にしたい」とか「地域活性化」は、あまり目的にはしていません。その方が自分にとっては良いと思います。自分が何のしがらみもなく「楽しい！楽しい！」とやっていたら、自然な流れでまちが輝き、人々の心も輝いていく、そんな感じになってほしいです。

【佐々木】確かに。「元気」は「目的」ではなく「結果」！

【加藤】僕は「この路地裏かっこいい」とか「シャッターに絵描き放題じゃん」とかそういう地域の‘もったいない’を見つけて自分が楽しみながら活動したいし、そんな田舎のおもしろさを皆さんにも気づいてもらいたいですね。そして何事にも感謝していきたいです。

個展「涙～それははじまりの雨だった～」

期間：平成30年5月26日(土)～6月3日(日)
時間：9時～17時
場所：小野寺家宅地(一関市千厩町鳥羽335)
※目印の看板もあります。
フェイスブック：https://www.facebook.com/teppei.katou.9
インスタグラムもやってます！

団体紹介

「さくらカフェ」の店内

～基本情報～

◆理 事 長：沼倉信夫 さん
◆住　　所：〒029-3101
　一関市花泉町花泉字阿惣沢沖 131
◆電　　話：0191-36-1700
※「さくらカフェ」は「さくらいちのまち（花泉町涌津字一ノ町 27-1）」内

地域に根ざした障がい者福祉施設として

期待を力に、そして希望へ

花泉町特産の古代米を使用した「米粉パン」が人気の「社会福祉法人　花泉さくら会」さん。今でこそ大きな法人ですが、そのスタートは、週に１回、５～６人の利用者さんが通う小さな作業所でした。昭和 61 年、ボランティアさんによる無認可の作業所という位置づけでしたが、それまで町内に障害者作業所のようなものがなく、養護学校卒業後はやむを得ず自宅に閉じこもりきりになってしまう人が多かったという花泉において、この小さな作業所は希望の光だったと言えます。

平成 13 年に法人化、平成 14 年に晴れて知的障害者通所授産施設「さくら学園」を公設民営で開設。この時にも、花泉内外からこれまで在宅で過ごしていた人たちが多数入所しました。当時は町民の福祉分野への関心が薄く、町としての福祉施設の整備は難航していたそうで、利用者やその家族にはもちろん、発足当初からの関係者たちにとっても念願の施設でした。

交流や集いを大切に

現在は障害福祉サービス事業所「さくら園」「さくらいちのまち」グループホーム「プリムローズ」「さくらいちのまち」にて 12 事業を展開している同法人。なかでも現在力を入れているのが「さくらいちのまち」内に設けられた「さくらカフェ」です。

「カフェとしても人気が出て、もっと気軽に人が集えるような場所にしていきたい」と抱負を語ってくれたのは理事長の沼倉信夫さん。沼倉さんは昭和 61 年当初から行政や社会福祉協議会の立場としても活動をサポートしてきました。

市役所花泉支所のすぐ横にある「さくらいちのまち」は沼倉さんにとって想い入れのある施設。当初、地域活動支援センターのような位置づけのスペースに需要を感じ、開設したものの、利用者がほとんどなかったのだとか。「当時の花泉にはまだ早かったのかもしれないね」と振り返ります。そこでカフェ併設の事業所に転向し、現在に至りますが、「気軽に人が集える場所」という当初の想いは健在。障がいのある人同士、利用者と地域住民、地域住民同士、様々な交流が自然と生まれる場所にすべく力を注いでいます。

地域でいきいきと暮らす

昨年 11 月に 2 つ目のグループホームを開設した同法人。障がい者グループホームの需要は高まっていますが、グループホームの開設には物件の要件も厳しく、スタッフの確保も難しいことから「需要には応えきれていない」と沼倉さんは悔しそうな表情を見せます。

同じく昨年、さくら園では立地する花泉地区自主防災会との合同避難訓練を開催。訓練そのものもさることながら、地域住民に利用者とのコミュニケーションについて理解してもらう良いきっかけになったといいます。災害時のような非日常の場面では、「普段通り」にならないことにとまどってしまう利用者も多く、地域住民の協力があって安全な避難につながります。そういう意味でも、身近にグループホーム等があることが大切になってくるのではないかと同法人は考えます。

小さな作業所からスタートした同法人も、３年後には法人設立 20 周年。沼倉さんは「記念事業も計画し、相談支援事業所の拡充など地域との交流を密にし、障がいがあってもいきいきと暮らせるような地域づくりに寄与したい」と、抱負を語ってくれました。

理事長の沼倉さんと会を作ってきた先輩方（上部の写真）

川崎　外山西部自治会（そでやま）

地域紹介

川崎町民体育祭での一枚
（賞状を持っている青い上着の方が小野正弘さん）

～基本情報～

◆自治会長：小野正弘さん（１期２年目）
◆外山西部自治会は川崎小学校から北へ約 1.5km 先にあり、「外山西部自治会館」を活動拠点に 26 世帯約 86 名が暮らす小さな自治会です。

地域の皆さんが、活動に参加しやすくなるための一工夫

気配りから始めた体育祭でのお弁当タイム

「少子高齢化の中でも、できることを無理のない範囲で活動することが、自治会活動を継続するコツではないでしょうか」と真剣な眼差しで語る小野さん。今回お話を伺った自治会長の小野正弘さんは、若い時は家族と共に転勤生活をし、約 20 年前に実家の外山地区に帰郷。会長としては２年目ですが、その前は書記や教育文化部長、総務部長など、いくつもの役を務め地域活動に長く携わってきたベテランです。

川崎地域の中でも特に世帯数・人口が少ない外山西部自治会ですが、自慢は‘結束力の強さ’。川崎で夏に開催され各地から 50 以上のチームが集まる「北上川流域交流Ｅボート大会」では何度も成績上位に名を残し、平成 29 年度は見事初優勝を飾りました。同年、川崎地域の全 26 自治会が参加する「川崎町民体育祭」でも、参加した皆さんの結束力が実を結び、世帯数が倍以上ある自治会を抑えて優勝。

「優勝できたのは、地域の皆さんが参加し協力してくれたから」と感謝を口にする小野さん。参加を増やす工夫の一つに挙げたのは、体育祭のお昼に配っているお弁当です。終了後の反省会や懇親会を止めた代わりに、選手や応援の方などにお弁当を用意。女性がいない家庭もあるだろうからと数年前に当時の体育厚生部が始めた取り組みでしたが、選手や応援の方の士気を高めると共に、お母さん方からは「弁当準備の手間が省けて助かる」と好評で、「皆でお弁当を食べながら交流するのが楽しみ」と集まる若者や家族もいるほど。「近年の好成績はこのお弁当の効果かも」と笑顔を見せます。

「情報共有の場」と「周知」の取り組み

同自治会では、役員改選期になると各班から役員選考委員を選出。新役員案を検討し、臨時総会で決定します。年間活動の中には各部長が主導する活動もありますが、それらの動きや近況を共有する場として、月１回の定例役員会を設けています。会長、副会長、書記、会計、各部長、各班長で毎月末に自治会館に集まり、前月の活動報告と翌月の活動予定を全員で確認。特段報告することがない月でも、「定期的に顔を合わせる場が必要」と昔から続けている会議です。

そこで話された内容は「行事予定表」として毎月全戸に配布。「いつ・どこで・何を」がＡ４片面の用紙にシンプルに明記され、その他の連絡事項も短い文章で掲載。「地域に小中学生は８人だけ」と少子化に悩む一方、声をかければ老若男女問わず集って来てくれるのは、こうした情報共有や周知の仕方が確立されているからかもしれません。

自治会の一大交流行事「しめ縄づくり」

そんな同自治会の一大交流行事は、年末に行う「しめ縄づくり」です。自治会の北側に立つ兎鳥山には、明治 40 年頃に本社･栃木県鹿沼市から分霊されたという開運防火の神様「古峯神社」が祀られており、地域のシンボルとして大切にされています。その神様に毎年しめ縄を奉納しようと、年配の方を講師に地域の子ども達と２本のしめ縄を作り奉納するのが年末の恒例。地域住民の交流や伝統の継承を尊重しながらも、少子高齢化といった課題と向き合い、「継続のかたち」を考えていきます。

しめ縄は参道入口の鳥居用と本堂正面用の２本作ります

企業紹介

大住正樹　さん

～基本情報～

◆オーナー：大住正樹　さん
◆住　　所：〒029-3311
一関市藤沢町黄海字町裏 30-1
◆TEL/FAX：0191-63-5831

地域の基盤産業として若者目線で農業に挑む

幼少時代の思い出の地に

春の訪れを告げる鳥のさえずり、夏の青々とした田んぼの稲、秋の夕暮れを彩る赤とんぼ、冬の厳しさを包み込む雪の白さ。四季が織りなす自然とともにあり、その恵みを享受している農業ですが、逆に自然に左右される産業ともいえます。この現状を含めて収入の不安定さから農業離れが進み、後継者不足で古くから営んできた田畑をやむをえず耕作放棄してしまうケースも地域の課題の一つとしてあげられています。

今回は一関市藤沢町黄海地区に 20 代で移住･就農し、現代農業のあり方を考え発信する“おおすみファーム”のオーナーの大住正樹さんに農業と人との繋がりについてお話を伺いました。

大住さんは、埼玉県出身で現在 36 歳。平成 21 年に農業を営んでいた祖父の後を継ぐため藤沢町黄海地区へご夫婦で移住してきました。翌年には就農し祖父の代からある 3 棟のハウスを 8 棟に増やしメイン栽培しているミニトマトやスナップエンドウの拡充と、消費者ニーズに合わせたケールなどの西洋野菜、各種ハーブを栽培・出荷しています。

「幼少期から母親の実家がある黄海に良く遊びに来て、小学生時代の夏休み期間は黄海で過ごしていた」と語る大住さんは「地域や自然、農業に触れる機会が多く、農業に興味を持ち始めたのもそれがきっかけの一つだったかもしれない」と続けます。

食卓に夢と希望と彩りを

大住さんは、高校卒業後、埼玉県農業大学校に進学し、北海道富良野市で農作業ヘルパー※1 を 3 年間、個人でミニトマト農家を 4 年間経験してきました。奥様との出会いも北海道でのことでした。

ご夫婦で就農するうえで考えた経営理念が“食卓に夢と希望と彩りを” これは「自分たちが育てている野菜はメインに添えるもの。だからこそ彩りを大事にしたい」という思いを込めたもので、「お客様に喜ばれる特別な野菜の生産」「農業と環境の調和を考え行動する」「健全・安全な労働環境をつくり働き甲斐のある職場づくりを進める」「希望の持てる農業経営を確立し農業者の育成をする」の 4 つを柱として運営しています。

栽培した野菜は市内の産直に出荷するほか、レストランやカフェにも販路を拡大し、市内のカフェによっては、直売コーナーを設けているところもあります。

若手農業経営者の交流を地域で活かす

大住さんが農業を営む上で大切にしていることは「交流と情報交換」。ＪＡ青年部や農村青年クラブ（通称 4Ｈクラブ）※2 などの組織に加入し、勉強会、研究会、視察研修などにも本業をおろそかにしない範囲で精力的に参加し、自らの農業経営の発展に努めます。

「農業でも地域づくりでも、今思うのは中間層が少ないこと。父親世代（50 代～60 代前半）の中間クッションがない分、集まりなんかで若者の総合的意見を直接祖父世代（70 代以上）に言うからうまく進まないこともある。せっかく若者たちで話し合った内容でも受け入れてもらえないときは残念な気がするね」とこぼしながらも、「自分の農業理念に立ち返り、地域の基盤産業として農業経営の仕組みづくりと後継者育成に力を入れていきたい」と語っていただきました。

Facebook で新鮮お野菜情報発信中！！

※1：「農業に興味がある・農村生活をしたい」といった主に都市部の若者を全国から募集し、滞在施設で生活しながら野菜生産者養成や農協施設（選果場）で農作業のお手伝いをするという制度のことで JA ふらのが平成 8 年に創設

※2：元々アメリカでの取り組みを参考に作られたもので、Ｈで始まる 4 つの単語を信条として活動しています。①Hand（腕を磨く）、②Head（頭を訓練する）、③Heart（心をつちかう）、④Health（健康を増進する）、で「4H」

センターの独自調査　ごみステーション

センターの〇〇！

ごみステーションの一例
写真は室根地域内

ごみ集積所（以下「ごみステーション」）は、家庭から出るごみを排出及び収集するために、一時的に集積する場所のこと。
地域や集落によって様々な形のごみステーションがありますが、いったい誰が設置管理しているのか？そんなこんなも含め調査してきました！

花泉金沢地区の協働体の動きの中で、ごみ捨てマナー改善のために取り組んでいる事業があり、モデル的に鏡を設置したごみステーションの写真が個性的で、他の地域ではどうなんだろう？というスタッフの声から調査に発展！
あちこちの協働体でごみ捨てマナー問題は話題にあがっており、ごみステーションの工夫で解決できるのであれば、その特徴を分析し、困っている地区や集落の参考になるかもという期待も込めて調査結果をお届けします。

一関市のごみステーション設置基準

ごみステーションの設置基準は原則以下の通りとなっており、新設・移設については、指定の申請書を提出する必要があります。地域で話し合い公衆衛生組合長（区長や自治会長が兼務している場合が多い）などを通して一関市生活環境課もしくは各支所市民課にご相談ください。（個人での要請はできません）

① 概ね 30 世帯の一般住宅を構成する地域に 1 か所
② 概ね 20 世帯が入居するアパート・マンション等の集合住宅（以下集合住宅）に 1 か所

管理責任者は？

各行政区の公衆衛生組合長もしくはアパートやマンションなどの集合住宅管理者（大家さんなど）が管理責任者となっている場合が多いです。ごみステーションの設置場所は管理責任者が事前に土地所有者から同意を受けなければなりません。

維持管理費用は？

ごみステーションの設置、改修、移転、廃止及び維持管理などの費用は、各行政区や自治会の負担です。建設費用は大きさ、素材など地域によって様々であり把握できませんでした。行政区や自治会によっては補助金制度等を活用し設置したところもあるようです。

聞き込みのアレコレ　合併前の東山町では県の「いわて木とのふれあい拠点づくり推進事業」補助金を活用し『ふるさと護美収集所』を約 50 か所設置したそうです。

ごみステーション・コレクション

スタッフが調査した各地域のごみステーション。色、形、素材、構造など多種多様であることが分かり、見ているだけでも楽しめました。
そこで！！いくつかのコレクションとしてごみステーションをピックアップしてご紹介します。

ロック式の鍵で管理
アパート住民のみ利用ができる

リサイクルステーション併設型

ごみ捨てマナー改善のため
ごみステーションの中に鏡を設置

ごみステーションについて色々とご紹介させていただきましたが、ゴミ捨てマナー問題の解決につながるヒントは見つかりましたか？ごみステーションの利用はごみ出しの場所やルールを守り、みんなできれいに使いましょうね！

おしらせ

一関　第50回子どもの森

巨大迷路や竹馬、竹げた、こま、魚釣り、折り紙などの昔遊びを体験しながら楽しく交流する「第50回子どもの森」を開催します。今年は開催50回目を記念し、13時からは「人形劇」も行います！どなたでもお気軽に遊びに来てください。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成30年5月13日（日）10時～15時
【場所】山目市民センター
【料金】入場無料
【問合】0191-23-9721
（一関世代にかける橋　代表　橋本）

一関　「第50回子どもの森」ボランティアスタッフ募集

「第50回子どもの森」の前日会場準備と、当日各種昔遊びコーナー等で子ども達と遊んだりお世話をしてくれるボランティアスタッフを募集します。子どもと遊ぶのが好きな方など、初めての方でもお気軽にお問い合わせください。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成30年5月12日（土）14時～16時
平成30年5月13日（日）9時～15時
【場所】山目市民センター
【持ち物】昼食、水筒、上ぐつ
【問合】0191-23-9721
（一関世代にかける橋　代表　橋本）

一関　厚生労働省認定事業 いちサポ就労相談

いちのせき若者サポートステーション（通称：いちサポ）では、「就職活動がうまくいかないなぁ」と感じている方の個別相談を行っています（※要予約）。履歴書の作成、各種セミナー、企業見学・体験を通して就職準備、その後の職場定着まで個人に寄り添ってサポートします。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【受付時間】平日9時～17時
【場所】なのはなプラザ4階
【料金】相談無料
【対象】39歳以下の求職中の方またはその家族
【問合】0191-48-4467（いちサポ）

花泉　「手づくりパン工房さくらんぼ」「さくらカフェ」

今月号の団体紹介に登場した「社会福祉法人花泉さくら会」さんが運営するパン工房とカフェをご紹介します。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

①手づくりパン工房さくらんぼ
【場所】花泉町花泉字阿惣沢沖131　さくら園敷地内
【営業時間】平日10時～17時
②さくらカフェ
【場所】花泉町涌津字一ノ町27-1
【営業時間】平日10時～16時
【メニュー】　コーヒー、軽食、ソフトクリームほか
パンの直売コーナーあり

川崎　自治会長サミット

改めて「協働のまちづくり」の背景や進め方等を学び、自治会長としての関わり方を考えていきます。地域協働体の立場から藤沢町住民自治協議会の千田博さん、自治会の立場から室根第12区自治会の三浦幹夫さんに発表いただき、後半は情報交換を行います。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成30年7月4日（水）13時30分～16時30分
【場所】川崎市民センター
【対象】市内自治会長または準ずる役職員の方
【参加料】無料
【問合】0191-26-6400（いちのせき市民活動センター）

一関　いちのせき市民フェスタ18 新規出展団体募集

市民活動団体を中心に、個人や社会貢献活動を行う企業等が集い展示や活動紹介等を行う「いちのせき市民フェスタ18」。今年は平成30年8月19日（日）になのはなプラザで開催します。このイベントへの新規参加団体・企業・個人を10団体程度募集します。申し込みについては下記ホームページをご覧ください。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【募集期間】平成30年5月21日（月）～6月1日（金）
【出展料】無料
【HP】https://www.center-i.org/
【問合】0191-26-6400（いちのせき市民活動センター）

「貸借対照表の公告方法」を定款に定めていないNPO法人の皆さまへ

今までは資産の総額の登記を毎年変更することが義務付けられていましたが、平成28年の特定非営利活動促進法（以下「NPO法」）一部改正に伴い、その変更登記が不要になる代わりに、毎年貸借対照表の公告を行うことが義務づけられるようになります（平成30年10月1日施行）。

◆ポイント◆
「貸借対照表の公告の仕方」を、遅くとも平成30年10月1日までに定款に定める必要があります。
→総会で定款の変更を議決した上で、所轄庁等に「定款変更届出書」を提出しましょう。

＜記載例＞

第△条
この法人の広告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、法第△条に規定する貸借対照表の公告については、○○に掲載して行う。

下線部は下記①～⑤の方法の中から選ぶことができます。
① 官報に掲載
② 日刊新聞紙に掲載
③ 電子公告（法人のHPなど）
④ 内閣府NPOポータルサイトの法人入力情報欄に掲載
⑤ 主たる事業所の掲示場への掲示
※③の場合は、約5年間継続して広告する必要があります。

今月の表紙

千厩町磐清水地区の仏坂自治会のゴミステーションです。正面に貼られた「フランス坂」の文字は、地元の方が「仏坂（ほとけざか）」という地名を親しみやすく思ってもらえるようにと「フランス坂（仏＝フランス）」という愛称を考案。ラベルも自作し、大切に使われています。

Q&A　あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q 報告書は何のために必要なのでしょうか？

A 事業報告書と収支報告書はPDCAサイクルの Check（評価）にあたります。目標をどこまで達成できたのか、収支はどうだったかなど、事業を振り返り、評価検証することで、次回により良い事業を実施するための材料になります。また、報告書と決算書を作成し、内外へ発信することは、団体の活動の透明性を保証し、社会的信用を得ることにも繋がります。

発行■いちのせき市民活動センター　〒021-0881　一関市大町 4-29　なのはなプラザ4F　TEL0191-26-6400　Fax0191-26-6415
せんまやサテライト　〒029-0803　千厩町千厩字町 149　TEL0191-48-3735　Fax0191-48-3736

Face book